

	まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ 全体まとめ		
地区	蒲郡北地区（中部中学校区）	回数	第1回
日時	2019年7月7日（日） 13：30－16：00		
参加者数	40名		

1. 計画検討やワークショップの進め方について

1) 蒲郡市の現状と課題について

将来の維持更新費が足りなくなるという根拠について、疑問が残る。

施設を縮減するよりも今ある施設を長く利用したほうが、コストを抑えられると思う。

- ・ 資料10ページ「公共施設の維持更新にかかる将来費用」のグラフで、年平均約36億円とあるが、市民病院の経費を含んでいるのか？
- ・ 公共施設の3割の縮減という方針になっているが、今ある施設を長く利用する方が、よりコストを抑えられると思う。長寿命化を検討するのが良い。

人口減少が進む見通しに合わせて公共施設も縮小を考えているが、企業誘致や宅地造成などの人口を増やすための施策も考えるべきだ。

余裕を持たせた計画も必要であるが、運営面や維持管理費用など総合的に考えて検討すべきである。

- ・ 市の資料を見ていると、人口減少が一層進む見通しに合わせて施設も削減の方向で進められているが、納得がいかない。
- ・ 人口が単純に減っていくところとは別に企業誘致や宅地造成などにより、将来政策的に増やしていく可能性があるのであればそのあたりを分けて考えるべき。
- ・ 蒲郡西インター近くには新たな造成地があると聞いている。企業誘致等で人口増になる要因となればよい。
- ・ 将来政策的に増やしていく可能性がある場合、施設の床面積を単純に減らすのではなく、余裕を持たせた計画にすることも必要。ただし、施設規模が増えると担当職員も多くなるため、運営面や維持管理の費用も多くなることから総合的に考えて検討すべき。

人口減少に対応して将来の公共施設の縮減や合併はある程度仕方がないと思う。今ならまだ財政的な余裕もあり、検討を始めるには好機だと思う。

- ・ 人口減少に対応して公共施設の縮減や合併はある程度仕方がないと思う。
- ・ これから人口減少や財政縮減が見込まれる中、今ならまだ財政的な余裕もあり、それゆえに取りえる選択肢も多い。将来の話をするのに、今は好機だと思う。

2) 地区個別計画策定に向けた検討の進め方

公共施設の建て替え時期の目安を示してほしい。

- ・ 対象の公共施設の建て替え時期の見込みを提示してほしい。築年数や老朽化度では、いつまで使えるのか判断できない。

地区内にある図書館や市民体育センター等の全市利用型施設についても、一緒に検討すべきではないか。

- ・ 全市利用型の施設の検討と地区個別計画の策定は切っても切り離せない関係にあるため、検討材料に入れるべきではないだろうか。例えば、図書館や市民体育センター等の複合施設を西部地区に持ってくるという考えもあると思う。
- ・ 市民体育センターや市立図書館も同地区内にある。全市利用型施設となっているが、学校の図書室の利用、市民の公民館利用などを考えていくのであれば、再配置を考える際に一緒に考えても良いのではないか。
- ・ 中央小学校に隣接する市民体育センターの建て替え問題については、現状はどうなっているのでしょうか？再配置を考えるときに、市民体育センターがどうなるか？は再配置を考える際に必要な情報だと思う。
- ・ 駅前がどうなるのか、ということと、中部中学校区がどうなるかということは、市民にとっては当然同時に考えることで、体育センターの立地も含めて、地区個別計画について考えるべきではないだろうか。
- ・ 将来的な市民体育センターや図書館の改修にあわせて地区施設を併設する方法も考えられる。

小・中学校については中学校区の枠にとらわれずに、全市的な方針・視点で配置案を考えた方がよいのではないか。

- ・ 公共施設の再配置を考えるにあたって、小学校・中学校の配置については地区個別計画の中で話し合うのではなく、全市的な方針・視点で配置案を考えた方がよいのではないか。小中一貫校を全市的に配置するなら7校に絞るなどのアイデアを検討しても良い。

中央小学校区は蒲郡公民館を利用しているため、蒲郡南地区を交えて公民館の再配置について話し合いをする必要がある。

- ・ 中央小学校区には公民館がなく蒲郡公民館を利用している。公民館の話をするならば、地域や常会など自治会活動が分断されてしまうので、蒲郡南地区（蒲郡公民館を利用する人たち）を交えて再配置についての話し合いをする必要がある。

3つの小学校区毎に地域の実情が違いため、各学校区の問題や課題等に対する認識に温度差が出ないように、お互いの実情を知ることが必要である。

- ・ 中央小学校区（蒲郡南小からの分校）、北部小学校区（地区の南側では区画整理事業により宅地開発が行われ比較的新しい住民が多い）、西部小学校区（市街化調整区域が多く学校も小規模で他地区よりは人も少ない）では、それぞれ地域の実情が違うため、参加者の見方も異なる。各小学校区の問題や課題等に対する認識に温度差が出ないように、お互いの実情を知ることが必要である。

ワークショップやオープンハウスだけでなく、自治会・PTA等の地域団体や興味を持っていない人の意見をどう吸い上げ、計画に活かすかの工夫が必要である。

- ・ 公共施設の縮減・再編は地域コミュニティへの影響が大きいため、このワークショップやオープンハウスだけでなく、自治会やPTA等の地域団体にも意見を聞く機会を設ける必要がある。
- ・ 今回のような会合に参加していない人、または興味を持っていない人の意見をどう聞き取ることができるのか？その人たちへの共有と取り組みの工夫が必要だ。

3) ワークショップの進め方

グループ討議のファシリテーターは外部に依頼するのではなく、市の職員が担当すれば運営コストを削減できるのではないかな。

- ・ グループ討議に外部のファシリテーターを依頼しているが、市の職員が運営すれば運営コストを削減できるのではないかな。

グループワークで個々が意見を出す時に、本人が要点をまとめて付箋紙に書くことは難しい。グループファシリテーターが書き起こす方が良くないかな。

- ・ 今回、意見は参加者が個々に付箋紙に書いていったが、要点をまとめて書くことが難しいため、今後はグループファシリテーターが書き起こす方が良くない。

2. 地区のまちづくりや公共施設について

1) 地区のまちづくりの方向性

高齢化が進んでいる地区もある。日常的に交流ができるよう、公共施設やコミュニティバスの整備、ソフト面での対応などで、高齢者が住みよいまちにしたい。

- ・ 坂本町の高齢化は深刻である。車に乗らなければ生活ができない。交通インフラの整備が急務で、コミュニティバス等の手立てを考えたい。
- ・ 高齢者にとっては日常的に交流できる居場所があることが大事だと考える。公共施設の再配置の計画が、こういった地域課題を解決するものであってほしい。

中央小学校と南部小学校、中央小学校と西部小学校では学校区と自治会との不整合が起きているため、不整合は解消される方が良い。

- ・ 中央小学校と南部小学校、中央小学校と西部小学校との学校区境界では自治会との不整合が起きている。通っている小学校とお祭りなどに参加する自治会とが異なっているので子どもたちが可哀そう。こうした不整合は解消される方がよい。

西部小学区は市街化調整区域が多く新しい家が建ちにくい。将来的に、学校区内で開発できるようにならないか。

- ・ 西部小学校区は市街化調整区域を抱えていて新たな家庭が入りにくい。道路を作ったり、新たに区画整理するなどして学校区内で面的な開発を進めることは将来的にできないのか？

現在の学校や保育園の維持にこだわる必要はない。公共施設の再配置と共に行政区も適宜変化していく必要がある。

- ・ 現状の保育園・小学校・中学校の維持にこだわる必要はない。行政区も同様に動向の変化やこれからの再配置と合わせて適宜変化していく必要がある。

2) 公共施設の現状や今後について気になること

■公共施設全般

施設の利用現状や将来の人口動向を把握した上で、公共施設の再配置の必要性について考える必要がある。

- ・ 公共施設の再配置・統廃合を議論する前に、現状をまず把握する必要がある。利用率やどのように利用されているのか？を市民が把握したうえで、どうやって利用してもらうことができるか？必要性について考えていく必要がある。
- ・ 将来人口が減少して昔の人口程度になったとしても、人口分布や年齢構成は昔とは異なる。将来の人口分布や構成に応じた施設配置を検討するべき。

高齢者や子どもは徒歩での移動が多いため、こうした人が利用する施設は徒歩圏内に配置を検討すべきである。

- ・ これから高齢化社会がやってくる。高齢者は徒歩で移動することが多く、児童も徒歩での移動が多い。こうした人たちが利用する施設は、徒歩で移動できる範囲内に配置するのが良い。

多機能化、集約化することによって、子育て環境の向上や、災害等の非常時への対応もとりやすくなる。

部活動がなくなるので、子どもと市民団体が共に活動する場所を検討できると良い。

- ・ 建替え更新の機会に、災害時に障がい者や高齢者の避難対応できる施設にしたり、日常の子育てに寄与する施設にするなど、多機能化を推進することが望ましい。
- ・ 保育園・小学校・中学校のそれぞれに子どもを通わせている保護者の視点だと、災害があったときに子どもがバラバラになっていると心配。学校施設は近くにまとまっていると安心する。
- ・ 保育園・小学校・児童館はなるべくまとめ、近くにあるほうが良い。その方が保護者にとって便利で安全な子育てができる。
- ・ 今後 3 年のうちに部活動がなくなるといわれている。市民団体の活動場所と子どもたちの活動場所が同じになれば、子どもが参加できるようになる。そうした視点で各種活動場所の検討をしていくのも良いと思う。

避難施設など防災面も考慮した上で、公共施設の配置を計画すべきである。

津波や洪水の危険性について、年配の人は理解をしているが後世に伝えられていない。

- ・ 中央小学校は避難施設としては海拔が低すぎるのではないかと。対して、西部小学校は高い位置にあるので良い。西部地域に公共施設を集中させる案もあると考える。
- ・ 中央小学校は避難施設に指定されているが、他の小学校より海拔も低く避難場所として適切なのか疑問。防災、減災の観点から学校の再編等を考えていくことが必要である。
- ・ 公共施設の配置検討に、避難所の計画は検討材料として大きい。現実の受け入れることができる人数と、一時避難なのか、中長期の避難なのか、とうことも計画に必要。
- ・ 民生委員の立場で、高齢者や弱者を助ける等の話し合いの場に参加しているが、そういったソフトの対応についてはまだ明確な対策に至っていない状況である。
- ・ 線路まで津波が来る可能性があり、落合川・西田川の氾濫も考慮に入れるべきである。この危機感には、世代で温度差がある。年配の人は危険性を理解しているが、後世に伝えられていない。

施設が老朽化しており、対応が必要である。

- ・ 北部小学校区、西部小学校区は歴史が古く、施設も老朽化しており何らかの対応が必

要だと感じている。

公共施設が有効活用されていない。民間に有料で貸し出したらどうか。

- ・ 公共施設が有効活用されていない。小学校のグラウンドが空いているのにルールがあって使えない。民間に有料で貸し出して、使用料を施設の維持管理費用に回せばよい。

今ある施設を有効に活用し、余った施設は廃止すべきである。

- ・ 今ある施設の収容限界まで人を集約し、余った施設は廃止にすべき。

■小学校・中学校

学校施設の利用実態を正しく把握したうえで、施設の有効利用や廃止の可能性を検討するべきである。

学校は地域活動などでもっとオープンにされるべきだと思う。

- ・ 小中学校の空き教室を、公民館として有効活用してもよい。
- ・ 小学校の空き室があるというが、実際どのくらい空いているのか。利用実態を知りたい。あれば、有効利用の可能性を検討できる。
- ・ 部活動が減っていく中で、テニスコートや弓道場の必要性を考え、再配置を考える際にはこうした学校内施設の廃止も検討していくのが良い。
- ・ 小・中学校はもっとオープンにされるべきだと考える。例えば、祭りの休憩所にするなどが考えられる。

通学路の安全を考慮した計画にすべきである。

学校の統合は通学距離が長くなり、安全面において心配がある。

- ・ 西部小学校が、どこかの小学校と合併するとなると通学距離や通学時間が長くなり安全面において危険である。合併してほしくない。
- ・ 中央小学校など、密集市街地での通学路も危険個所が多いので安全対策など対応は必要だと感じている。
- ・ バイパスが開通したことで交通量が大幅に増えている。西部小学校区への影響などは出ていないのでしょうか？（通学や学校区など）

生徒数や築年数を考慮すると、小学校を3校から2校へ再編するのが妥当だ。学校跡地の有効活用もできる。

- ・ 生徒数や築年数を考慮して3つの小学校を2校へ再編するのが妥当だ。例えば、西部小学校と中央小学校を合わせて新しい敷地に小学校を建てれば、中央小学校の敷地を体育館と合わせて有効活用ができる。

西部小学校区は人口が少なく、住民の負担も大きい。再編すれば負担の平準化や効率化を図ることができる。

- ・ 西部小校校区は人口が少なく、消防団や地区役員などの住民負担が大きい。西部小学校を中央小学校か北部小学校に合併すれば負担は平準化される。
- ・ 西部小学校は児童数も少なく、PTA など保護者に求められる役割を少ない保護者で担わなければならない大変。担い手もいなくなっている。また空き教室なども持て余しているようなので、西部小学校と北部小学校は統合することで効率化できる。

小規模校では人間関係に苦勞するといったデメリットと、自己表現力が養われるといったメリットの両方を聞くので、これらを考慮する必要がある。

- ・ 人数が少ない学校はクラス替えもなく、友達同士の人間関係などで苦勞するという声も聞く。半面、人数が少ないことで逆に自己を表現する力が養われるという声もある。

小学生の通学手段を確保したうえで、小中一貫校を導入して中部中学校と小学校3校を一緒にする案も考えてはどうか。

- ・ この機会に小中一貫校を導入して、中部中学校と小学校3校を一緒にする案も考えてはどうか。ただし、小学生の通学手段を考える必要がある。

学校を減らしてでも、児童の多国籍化への対応や、障がいを持った子への特別支援など、子どもたちに手厚い支援をしたい。

- ・ 小学校や中学校は少子化や児童の多国籍化、また障がいを持った子への特別支援などが増えていくと考えられる。学校を減らしてでも子どもたちに手厚い支援ができるようになってほしい。

■保育園

保育園は必ずしも最寄りの園ではなく、車で送迎している実態がある。統合によって効率化し、延長保育や未満児保育などのサービスを向上してほしい。

- ・ 保育園は必ずしも最寄りに通っておらず、車で送迎している実態があるので、3つの保育園を一つに統合して効率化し、延長保育などの利用サービスを向上してほしい。
- ・ 西部保育園は他地区から通っている子が多いのが現状。
- ・ 3歳未満のお子さんを預けたくても枠がない。保育士さんの人数も足りない。

西部保育園は西部小学校と一体化したほうが便利である。

- ・ 西保育園は西小学校に隣接しているが、いっそ一体にしたほうが便利である。

1クラス当たりの適正な園児数は15～20人ではないか。

- ・ 一クラスの適正規模を今一度見直すことはできないだろうか。30 名以上で 2 クラスに分かれることになっているが、自分の子供の経験から、1 クラス 15～20 名が適正だと思う。

■公民館

公民館は高齢者の利用が多いが、若い人が使いやすい環境づくりや利用のPRを行い、利用促進を図りたい。

多機能化や複合化によって、利便性が向上し、多世代で交流できる場となれば、地域の活性化にもつながる。

- ・ 公民館は現状、あまり使われていない。もう少し上手に利用していく方が良い。
- ・ 公民館の利用者が減っているが、他の地域からでも利用できることをPRして利用促進を図る。
- ・ 各公共施設の利用方法などを市民に分かりやすく伝える工夫が必要。
- ・ 公民館に若い人がもっと来てほしい。Wifi 整備など若い人が使いやすい施設にすべき。
- ・ 公民館は高齢者の利用が多い。もっと子どもや若者に来てほしいと工夫をしているが、小学校と複合化することで、色んな世代で交流することができるようになるのではないかな。
- ・ 高齢者のために、公民館等を投票場所に指定することはできないだろうか。
- ・ 子どもだけでなく成人も学ぶ（学び直す）ニーズが高まっているので、公民館を小学校と複合化し、地域の生涯学習の拠点としていくのが良い。そうすることによって大人（高齢者）の交流の場となり、地域の活性化にもつながる。

昔は子どもが公民館で遊んでいたが、最近は見かけない。公民館の必要性を考えるうえで、子どもの遊び場の現状も知りたい。

- ・ 西部小学校の子どもたちは昔は公民館でよく遊んでいたが、最近は見かけなくなった。今の子どもたちはどこで遊んでいるのだろうか？公民館の必要性を考える上で、子どもの遊び場についての現状も知りたい。

中央小学校区は隣の学校区にある蒲郡公民館を利用している。体育センターに公民館を併設してほしい。

- ・ 中央小学校区に公民館はなく、隣の蒲郡公民館を利用して遠すぎる。地区内の市民体育センターに公民館を併設してほしい。

■児童館・児童クラブ

西部小学校・北部小学校の児童クラブはちゅうぶ児童館で実施されているが、学校内できないのか。児童館への移動は大変で、交通事故も心配である。

- ・ 児童クラブで児童館まで移動がある生徒達は大変。全学年が学校での対応をすることは難しいのだろうか。
- ・ 国道 23 号線のインターチェンジや中央バイパスなど周辺に新しい道路ができると大型車両の交通量も増え、通学路への危険性も高まるのではないとか心配である。
- ・ 現在、西部小学校の児童クラブはちゅうぶ児童館で実施されている。実際に通学中の交通事故も起きていることから安全面で懸念があり、児童クラブは学校敷地内にできないか。ちゅうぶ児童館で実施する理由は、人数が少ないので学校間の交流を図るためか？理由が知りたい。

3. その他

自治会の役員を引き受けたがらない人が多い。自治会活動への参加を促していく必要がある。

バイパスが開通したことで地域が分断され、自治会運営に混乱が生じている。

地元が管理する地域の集会場を多機能化して活用できるようにするべきである。

- ・ 自治会などの役員を引き受けたがらない人が多い。こうした会合にも関心を示さない人も多く、どうやって参加を促していくか。役員業務の魅力をどう伝えていくか、を考えていく必要がある。
- ・ バイパスが開通したことによって道路の北部と南部が分断され、自治会運営に混乱が生じている。
- ・ 地区集会場（例：水竹町会館）は常時開いていないところもあるので不便である。児童の自習の場なども含めて多目的に使える場であり活用を促進することが必要。
- ・ 高齢者にとって、選挙の投票場所に行きにくいことが無投票につながる。蒲郡高校は、高齢者にとっては行きにくい。公民館等を投票場所に指定することはできないだろうか。